

令和2年度 さいたま市立浦和中学校 自己評価書

校長 吉野 浩一

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

中高一貫教育の特性を生かした特色ある取組を進めるとともに、高いレベルの教育活動を積極的に展開し、明るく活力があり、高い志をもった生徒を育成する。

- (1) 基礎・基本の確実な習得とともに、応用力、判断力、創造力を育む質の高い学習活動を推進する。
 - 主体的・対話的で深い学びやSTEAMS教育の視点を取り入れた授業を展開し、基礎学力の定着と学ぶ楽しさとわかる喜びを味わう経験の積み重ねによる、学習意欲の向上と自己学習力の育成
→「各教科等の授業の状況」「教育課程の編成・実施」「課題の在り方・取り組ませ方の変化」
 - よい授業のアンケートによる授業評価、学校評価や自己評価を生かした授業改善
→「自己評価・学校関係者評価の実施状況」「教職員の意欲・資質及びその向上に向けた取組状況」
- (2) 基本的な生活習慣を身に付け、「豊かな心」と「健康な体」のバランスの取れた生徒を育成する。
 - 新型コロナウイルス感染症防止対策を柱とする生徒の健康管理、生活安全にかかる生徒の自己管理能力の向上
→「安全教育の状況」「保健管理の状況」「保健教育の状況」
 - 中高6年間を見通した計画的、組織的、継続的な生き方指導と高校卒業後の自分を見つめる自己理解の充実
→「高校教員による乗り入れ授業」「進路指導・キャリア教育の状況」
 - いじめ・不登校防止等のための指導体制の充実と生徒の豊かな心の育成と一人ひとりの心のケアの充実
→「生徒の状況」「生徒指導・いじめ防止等の状況」「不登校生徒への支援状況」「教育相談の状況」
- (3) 体験活動を重視し、日本文化を大切にするとともに豊かな国際感覚と広い視野をもった生徒を育成する。
 - 国際理解をテーマとする総合的な学習の時間、「グローバル・スタディ」、音楽、特別活動の充実
→「ALTや高校英語ネイティブ教員による授業実践」「各教科等の授業実践」「教育課程の編成・実施」
 - 様々な体験活動を効果的に取り入れた教育課程の実施→「各教科等の授業の状況」「教育課程の編成・実施」

2 評価結果について

- (1) 今年度2回実施した中高一貫校向け学力推移調査の結果によると、本校生徒は全ての学年において、概ね基礎基本の定着が図られていることが分かる。また「よい授業」のアンケート結果から、教職員の授業力は市の平均を概ね上回り、特にICT機器を活用した授業を各教科等で数多く展開しており、99%の生徒が好意的な回答をしている。教職員による自己評価の結果からは、学習状況に課題がみられる生徒に対するよりきめ細かな指導の必要性がうかがえる。また、さいたまSTEAMS教育研究委嘱校として、今後は生徒が学習に主体的に取り組み生徒の自己学習力を向上させていく授業実践を研究していくことが不可欠である。
- (2) 教職員の自己評価によると、専門機関・家庭と連携を図りながら、生徒指導や教育相談に教職員が概ね組織的に取り組んでいることと考えられる。教職員の丁寧な対応の結果、いじめの認知件数が0、不登校生徒数も大幅に減少している。「心と生活のアンケート」やカウンセリングウィークでの二者面談の結果からは、学習や友人関係等について、継続した心のケアを必要とする生徒もいることがわかり、引き続ききめ細かな支援を継続していく。
- (3) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、3年生の海外フィールドワークや2年生の修学旅行等が中止となったが、その時々状況に対応して、日本の伝統や文化の理解、国際理解をテーマに3年間系統的に編成した指導計画及び実践により、現状で実施可能な各教科の授業や「総合的な学習の時間」を展開した。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、多くの生徒たちが豊かな国際感覚とコミュニケーション力を身に付けることができる活動を設定し、生徒自身の表現力や発進力の伸長を目指したい。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) 生徒の学力の底上げと自己学習力育成の強化
 - 課題を選択制とする等、自主的に選択し学習する意欲をもつ生徒の育成を図る。学習状況に課題がみられる生徒へは、学習意欲や能力の個人差に応じた個別指導の充実を図る。また、定期テスト前の「レッツ・スタディ・ウィーク」での自主学習及び個別指導を一層充実させ、生徒一人ひとりの学習内容定着と苦手分野克服に資する。
 - 新入学、進級時の手帳活用による学習ガイダンスの充実、家庭の協力も得ての継続的かつ組織的な学習支援サポート体制をより具体的に実施していく。
- (2) 生徒の豊かな心と健康な体の育成と一人ひとりへのサポートの一層の充実
 - 生徒指導・教育相談連絡委員会を中心に、さわやか相談室や専門機関と連携しながら、生活習慣や不登校等課題をもつ生徒への複数の教職員による細やかな指導を継続する。
 - 年2回実施のカウンセリングウィークを軸として、管理職、各教員、さわやか相談員、スクールカウンセラーと養護教諭との密な連携を図り、生徒に合ったサポートを継続的に行う。
 - 様々な体験活動を取り入れた特別活動（学校行事、生徒会活動、部活動、学級活動など）の一層の充実により、生徒同士の温かな人間関係づくりと豊かな心の育成に努める。
 - 生徒の夢と高い志を育み、特に高校卒業後の国公立大学進学を視野に入れながら、その実現に向けた学習指導とキャリア教育両輪の一層の充実を図る。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。